

運動部活動等に対する社会的責任感に關与する要因の地域差の検討

岡田 猛 (鹿児島大学教育学部)

部活動 社会的責任感 多次元分析

<目的>

「減私奉公から減公奉私へ」ということばに象徴されるように、社会的責任感の減退が一つの問題状況として指摘されてきている。

本研究ではこのような状況の実態解明の一環として、社会的責任に対する積極群と態度未表明群の弁別に寄与する諸要因のウェイトを求め、両群の特徴を多次的に分析し記述することを試みる。この手続きを鹿児島市と鹿児島県離島の二地域に別々におこない、地域差を検討する。

<方法>

1) 調査対象

鹿児島市	市内新興住宅地の中学 / 年生とその母	194人
	市内商業地区の	220人
離島	鹿児島県名瀬市の	181人
	鹿児島県沖泳良部の	294人

2) 調査期間

鹿児島市・・・ / 1980年6月～7月

離島・・・ / 1981年2月

3) 調査方法

生徒・・・集合調査

母親・・・生徒を介した配票調査

4) データ解析の方法・・・林の数量化理論Ⅱ類

外的基準：「あなたは、学級の係やクラブ（部活動）のしごとをひきうけたときせいっぱいがんばりますか」という質問に対する、「はい」回答者と「どちらともいえない」回答者の2群（最終的分析データ数は、市内で各群204人と81人、離島で76人と105人）
説明変数：子どもの生活リズム・生活習慣、子ども側のしつけのうけとめ、親子関係—子ども側と親側、親のしつけ努力、等の各領域から構成される48アイテム / 43 カテゴリー

<結果と考察>

・選択された説明要因の全体としての判別効果を示す相関比は本土0.31、離島0.57と離島が高い。これは本土生徒の生活構造の多層化、多重化によるものと思われる。弁別判断適中率は本土77%、離島89%であった。
・地域別にみると偏相関値の順位はかなり異なる。
・有意性(p<0.01)のある偏相関は本土で6アイテム（正直であるよう、母親の年齢、父親の学歴、勉強時間、等）、離島で9アイテム（部屋の整理をするよう、部屋の掃除、

表、分析結果一覧（一部）

アイテム	偏相関(離)	順位	偏相関(本)	順位	偏相関の差(離-本)	順位
部屋の整理をするよう C	0.38***	1	0.01	47	0.38**	1
部屋の掃除や机のまわりの整理 C	0.36***	2	0.05	38	0.31**	2
小遣いの使い方C 口を出す M	0.31***	6	0.06	31	0.25**	3
下校から夕食の間、寝る C	0.25***	10	0.03	42	0.22*	4
朝、一人で起きる C	0.25***	9	0.06	33	0.20*	5
起床から登校までの時間 C	0.34***	3	0.16**	6	0.18*	6
時間にけじめをつけるよう M	0.26***	8	0.11	16	0.15*	7
母親の年齢 F	0.34***	4	0.19***	2	0.15*	8
父親の学歴 F	0.08	32	0.19**	3	-0.12	9
母親が口やかましくいう C	0.24**	11	0.14*	10	0.10	10
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

登校前の時間、母親の年齢最後までやりとげるよう、等）であった。本土では特に「子どもの生活リズム」が、離島では特に「子どもの生活リズム・生活習慣」や「母親のしつけ」が子どもの社会的責任感の判別に寄与しているようである。
・本土、離島の間における偏相関の有意(p<0.05)な地域差を示す説明変数は、部屋の整理をするよう、部屋の掃除、小遣いの使い方Cに口を出す、下校から夕食の間寝る、一人で起きる登校前の時間、時間のけじめをつけるよう、母親の年齢、の8アイテムであり、いずれにおいても離島が高い。

C・・・子ども回答 相関比0.56 相関比0.31 ***・・・p<0.001
M・・・母回答 弁別判断適中率89% 弁別判断適中率77% **・・・p<0.01
F・・・フェイスシート *・・・p<0.05